【出席者】

委員：杉井委員、松田祐会長、杉原副会長、田中委員、松田安委員、松原委員、一乗委員（代理者）、山内委員
事務局：加藤部長、井上課長、川瀬課長補佐、嶋田課長補佐、復命者

1. 開会

2. 会長あいさつ（松田祐会長）

介護保険運営に関する1年間の振り返りについても最後の会議となるので忌憚のない意見をいただきたい。

3. 報告事項

（1）介護保険事業の状況（他市との比較）について【資料1】 事務局より説明（嶋田課長補佐）

①要介護認定率の推移 大野市の介護認定率：19.1%（全国平均と同等）

②第1号被保険者1人当たり給付月額

大野市>全国・福井県 ⇒ 要介護になる前に予防し、給付を抑えることが課題

③在宅系・施設系サービス受給率（要介護度別）

大野市>全国・福井県

④在宅サービス受給率（要介護度別）の推移

全国・福井県と同様の水準

⑤施設サービス受給率（要介護度別）の推移

福井県・勝山市：ほぼ横ばい、全国：若干減少、大野市：微増
施設サービス提供事業者の増加が原因と思われる。

（2）介護サービス事業所の指定及び指定更新等について【資料2】 事務局より説明（嶋田課長補佐）

〈地域密着型サービス事業〉

・指定更新1件。指定期間6年。

【質疑応答】

杉井委員：今後の地域密着型の事業所の認可予定は？

→（市）第9期の計画では予定なし。

杉原副会長：要支援1・2や要介護1・2の方が、それ以上の介護度にならないようにすることが介護保険制度の中の対応だと思うが、大野市にもそういう講座等があるのか？予防する気力を高めるような何か取組みがあると、市として話題になると思うが？

→（市）重度化予防として、毎月行っているケアマネジャーの勉強会や連絡会議で、ケアプランの見直しや情報共有を通じて、その方に適したケアプランを提供できるような、ケアマネジャーを通じての働きかけはしている。

さらに、もっと軽いフレイル状態の方について力を入れている。外出機会を増やすように通いの場を設け、作業やレクリエーションなどの取組みをしている。

杉原副会長：民児協でケアマネジャーとの語り合いの場を設けようとしたが、ケアマネジャーにもそれぞれ得意分野があるらしいが、その情報が知らされていない。

→（市）ケアマネジャーの勉強会が定期的にあるので、いただいた意見を共有したいと思う。

松原委員：大野市の介護認定率について、令和元年まではずっと18%で来ていたが、今年の資料では19.1%に上がっている。何か原因があるのか？

→（市）まだきちんと分析できていない。一生懸命、介護予防事業に取り組んでいるが上がっている現状なので、今後分析していきたい。ただ、9期の計画の中でも、高齢者数の増加に伴い、認定率は上がる見込みとなっている。

→（杉原副会長）介護者にとっては、認定率が高いのはある意味ありがたい。他市ではなかなか申請自体を受け付けてもらえないこともあるので、大野市は優しい対応をしているのかもしれない。

杉井委員：事業所で受け持っている方の平均介護度が下がると何かインセンティブがつくような制度があると、事業者の意識が変わって自分たちの事業所でも何か予防に取り組んだりするのでは?!と思う。

→（市）先日、各サービス事業所を訪問する介護サービス相談員の事業の一環で、市内のサービス事業者を集まってもらって情報交換をする場を設けた。同種の事業者が集まって話をする機会というのがあまりないと聞いていて、話合いを通じて刺激になったようなのでまたそういった機会を続けていけたらと思っている。

4. その他

【重度化予防のために効果的だと思われること等】

山内委員：ケアマネジャー等が来て目標を決めるけれど本人はやらない。歩かせたり強制的にはできない。いろいろな催しにも行かない。デイサービスが嫌な人もいるので難しいところだと思う。

一乗委員（代理）者：要介護3になると在宅から施設に切り替わるが、要介護3になったきっかけをデータ化して分析すると、その要因を避けて予防しようということができたらいいかなと思う。さらに、まだ認定を受けていない潜在化している人に対して、こういう状態になったら認定を受けてみるといいと広報できたらいいかもしれない。

松田安委員：あっ宝んどのサウナに杖をついて歩いているような方が来ていたが、杖をついてでも動いている方がいいのかもしれない。何か趣味があると、楽しいことに自分の気持ちが向くのでいいのかも。

杉井委員：見ている側はハラハラしても、本人のやりたい気持ちを大事にするといい。福祉的なマインドで「してあげなければ」と思うてしまうが、家族・地域全体で本人の思いを大事にする雰囲気になるといい。どうしたら支えられるか？というミーティングが重なっていくと、高齢者も自分を尊重してくれると感じ、相乗効果がみられるかもしれない。

松田会長：人との会話がなくなると極端に認知症が進む。また、転倒して骨折した人の予後は、認知症だけでなく死亡に繋がる人が多いので、そういったことの予防をすべきだと思う。

杉原副会長：デイサービスで貼り絵や塗り絵ばかりではつまらない。いろんな趣味の方がいるので、健康麻雀、将棋・囲碁のTVゲーム、体操、工芸などいろんなメニューがあって手先を動かせると認知症予防に繋がるのではないかな。

もう1つ、先日、県立高校の志願者の割合が出ていたが、若い人の福祉課への希望が本当に少ない。福

社の仕事の魅力を若い人に伝える必要があるし、賃金・待遇面を考える必要がある。海外の方を雇って従事者を増やす方法も考えていく必要があると思う。

田中委員：家族の意識、まだ一切介護に関わったことのない方を変えていく必要があると思う。下半身強化の大切さを広く市民に伝えていくといいのでは。例えば、デイサービスでやっている筋トレを一般家庭でもできるようなパンフレットがあると、家族で楽しくできてふれあいもできて、普段から取り組めていいと思う。あと、デイサービスはやはり男性が参加しにくい傾向にあるので、男性も楽しめる内容があるといい。

松原委員：老人クラブでいろいろな講座をやるが、出席者はほぼ女性である。男性は全体の2割ほど。男性の性格的なものもあるかもしれないが、男性が参加できるような魅力のある講座があるといい。認知症にならないためには「きょういく・きょうよう」が大事と言われている。今日する何か用事があって、今日行くところがあるのが大事と。

事務局：男性陣から活発な意見をいただきありがたい。

5. 副会長あいさつ（杉原副会長）

議題のその他でいろいろな意見が出たが、実現に向けて何らかの形になってほしいと思う。先程の資料では、大野市の認定率や給付月額が高くなっているとのことだったが、多少高くなってもそういう数字的なものにあまりこだわらなくていいと思う。福祉行政というのは相手に優しいものであってほしいと思う。